

民族藝術学会例会発表要旨（2020.6.27）

近代中国の女子洋画教育： 神州女学校と陳抱一

武 夢茹（九州大学人文科学府 博士課程後期課程）

1912 年中華民国建国後に上海に設立された神州女学校（1912 - 1927）で、どのような理念の基に臨模ではなく写生を中心とする洋画の教育が行われたのかを明らかにする。東京美術学校のカリキュラムに倣い、洋画家陳抱一（1893 - 1945）が、写生を通して三次元の対象を二次元で描写する技術と、対象のもつ美を感じ取る力を高めることを指導したことを指摘する。中国の絵画教育が臨模という伝統を脱却し、写生を導入することで近代化を志向した時代に、神州女学校は女性に対して写生に基づく洋画教育を提供することで、中国美術の近代化運動に女性が参画することを促したのである。